

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101239		
法人名	株式会社 ヒューマン・ネットワーク		
事業所名	介護支援センターながさき グループホーム福田		
所在地	長崎市小浦町4番地11		
自己評価作成日	令和3年10月12日	評価結果市町村受理日	令和4年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 3年 11月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年記入させて頂いていますが、5つの委員会活動です。この期間での取り組みとして「freedom委員会」で長年課題だったGH入口の施錠を日中だけでもフリーと出来た事。「歯ッスル委員会」では歯科衛生士さんがされる口腔ケアをマニュアル化し誰がしても同じケアになるよう取り組みました。新しく入居された方には歯科検診を受けて頂いています。「5S委員会」では清掃員さんの入社により介護職員では手が回らない部分の清掃をして頂く事で、その分の時間を利用者様のケアに充てる事ができています。「IN・Out委員会」では利用者様の状況により排泄用品の選定を都度行い、夜間オムツの方でも日中はリハビリパンツへ変更、夜間はリハビリパンツを使用している方は日中布パンツへ変更できないか都度検討します。ケアプランについても毎日の記録にケアプランのサービス内容が記載されておりケアプランに沿ったケアが行えているか確認が取れます。何より職員一人一人がケアプランの内容を頭に入れてケアを行う事ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成30年度より職員の発案から始まった5つの委員会活動も、時を経て根を張りつつある。委員だからこそ同僚にはっきり意見できる関係性がある。転倒防止のセンサー使用や布パンツからリハビリパンツではなく、代替案はないかと支援に立ち戻る姿勢は特長であり、一つ一つが利用者の生活に役立っている。家族アンケートは、集計し回答を公表している。運営推進会議は、家族の参加が多く、顔を合わせて集うことができる会議となっており優れていると言える。家族への便りは全職員が担い、利用者のネガティブ部分も伝え、家族と共有している。入浴は、利用者毎に湯を張り替え、介護度が高くても機械浴で湯に浸ることができている。天気の良い日は洗濯物を干し、スーパーで買物しセルフレジを体験する等、新型コロナ禍にあっても、利用者が楽しめるような工夫がある。職員は利用者と手を繋ぎ、背中に手を添え、顔を寄せて傾聴しており、「理念」の目配り、気配り、心配りを実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内で理念は作成していませんが、会社理念の”愛と信頼、そして幸せ”の理念を共通理念とし、毎月事業所内会議にて自分自身の言動と見合っているか振り返りを行っています。	管理者は「愛」を重要視し、利用者への目配り、気配り、心配りを忘れないよう職員に伝えている。新人職員は入社時やOJT研修を経て、6ヶ月後の本社研修等、理念の理解を深めている。利用者とは手を繋いだり、背中に手を添え、顔を寄せて傾聴する職員の姿勢から理念の具現化が確認できる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に自治会長に参加して頂く以外はほとんど行えていません。	職員は地域のイベントに参加協力したり、ペーロン祭りを利用者共々見物していたが、現在は新型コロナの為、極力外出を自粛している。管理者は、中学生の体験学習受入れや廃品回収協力等を予定しており、再び地域交流ができるよう、職員と一日も早い、回復を願っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	全く行えていません。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で実際に行った内容についての報告を行っていますが、この期間内で取り組んだ事はほとんどありません。	通常は、2ヶ月毎の開催であるが、新型コロナにより1回中止している。行事報告の他、事故報告や再発防止策、各種委員会活動報告等、取組みが詳細な議事録から窺える。家族の参加も多く、質問には真摯に回答している。参加できない家族や他メンバーには、議事録を送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連絡は十分に取り合える事は出来ていない。運営推進会議への参加もない状況で議事録を送付しご意見を書面で頂く事がやりとりのメインとなっている。	感染防止に配慮し、運営推進会議に市担当者の参加はないが、議事録に回答がある等、事業所の取組みに理解を得ている。知りたい情報は電話にて問い合わせる等、協力関係継続に努めている。行政からの研修案内は、オンライン化により職員の受講頻度が上がる等のメリットが出ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	freedom委員会で常日頃からケアを行うにあたって不適切だと感じる内容を排除する為に三か月に一度強化項目を設定。その項目の中にGH入口の施錠に関して検討し施錠は夜間のみ行う事となった。	freedom委員会が主となり、3ヶ月毎に不適切ケアについての職員アンケートを実施後、抜粋した強化目標を設定し、昼間の玄関開錠に繋がった事例がある。研修を3ヶ月毎に行っており、職員の意識を高め、利用者が安心、安全、安定した生活を送れるよう、拘束のない支援に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待を疑う事例は見られないが、三か月に一度虐待や身体拘束に関しての勉強会を事業所ない会議で実施している。また防犯カメラを設置し行動の把握がある程度できるようになった。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度成年後見人制度の理解を深める為、三か月に渡り外部研修を受講した。しかし現時点で実用化できておらず、その内容を職員へフィードバックも行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約締結については、退居時に忘れている事も多い為、入院や退居に関しては特に細かく説明している。途中で契約書の内容が変更になる場合は運営推進会議を活用し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入口に相談・要望用紙を設置しているが、ご家族が記入された事はない。ご家族面会時や電話連絡時に相談を受けた内容については報告書を作成し事業所で解決に向けて検討している。	事業所は家族アンケートを実施しており、集計し報告している。新型コロナ禍ではZOOMを導入し県外の家族も含め活用している他、玄関の外での面会や窓越しに顔を合わせるなど工夫している。現在は家族は自由に居室に入室でき利用者とゆっくり歓談できている。家族の要望でベッドの高さを検討した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度全職員へ人事考課をしてもらい、管理者は全員と面談を行う。その中で事業所や会社への提言等を確認している。また管理者に言いにくい事でもアンケートにて意見を集め、検討必要な項目については検討しその結果を発信している。また事業所内会議でも話し合いの場を設けている。	年2回人事考課を行い、それを基に管理者が面談している。職員から制服の見直しや研修受講の希望等が出ており、反映している。更に清掃専任の職員の配置希望も反映しており、職員は利用者への支援に費やせる時間が多く確保できている。委員会の構成は半年ごとに交替し全員が委員会を体験する工夫がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約時期に応じて時給の見直しを行っている。しかし10月より最低賃金が821円に上がった事で850円の職員より不満の声も聞かれている。大きなイベントもできない中、職員がやりがいを感じるイベントやケアを模索している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しく入社する職員は入社日に初期研修を実施し、数か月後再度フィードバック研修を行う。また、新人教育担当となった職員はOJT担当者研修の受講や、生活相談員は生活相談員研修を受講し、主任・管理者になる際も研修を受講する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西部包括より定期的に認知症カフェの案内を頂くが事業所として参加する事ができていない。またグループホーム連絡協議会理事をしている為、他事業所との連携が取りやすい状況となった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人や御家族の意向を確認している。十分なアセスメントをしても実際に生活すると相違点もある為、入居してしばらくは利用者様の発した言葉や行動、日頃の習慣や癖等を把握するために記録を密に取りケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでご家族は「早く施設を探したい」一心である為、入居時には関係構築がスムーズに行えても入居後様々な出来事が起きるなかで信頼関係を継続する事の難しさを感じる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にどのような支援が必要か職員含めての見極めを行い、外部サービスの導入を行ったケースもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする事に追加して「その方の暮らしにお邪魔している」という感覚で業務にあたるとして頂き危険を及ぼす可能性がある場合も職員がフォローに入りながらケアを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者やケアマネはご家族と直接話をする場がありますが、面会の制限をしている為、ご家族が直接職員と話す機会が減っています。しかしご家族から職員あてにお手紙やお花が届く時に一緒に支えてくれていると感じる場面があります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の機会を設ける事は出来ていません。他事業所との合同レクを行った際、顔見知りの方が声を掛けてくれる場面もありましたが覚えておられず混乱した様子が見られた事もありました。	11月から面会を再開しており、多くの家族が訪れている。畑いじりの好きな利用者は家族と職員が同行し畑を見物に行っている。職員は昔の話を聞き、馴染みの人や場を把握するよう努めており、日々の習慣である新聞を読んだり、時代劇や相撲をテレビ鑑賞したり、本人の馴染みが途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内で利用者様の状態により分かれる事もあるが、全員が参加するレクリエーションを毎日実施している。また別ユニットに学生時代の同級生が居る為定期的に会いに行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	この期間内に2名の方が退居されました。2名とも入院が長期化し退居となりましたが、退居後の連絡や支援については十分に行えていないと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意見を言える方からの要望に応える事はできているが、意思表示ができない利用者様については日頃からの観察で汲み取り対応している。また、ご家族から以前の習慣やご家族からの意向を聞いている。	職員は利用者と関わる時間を大切にしており、何気ない会話から本人の思いを聞き取っている。把握した内容は口頭や個人記録や日誌等に記録し職員間で共有している。帰宅願望がある利用者から「好きなお菓子を食べたい」と聞き、10時のおやつを提供し改善に繋がった事例がある。ただし、聴取した思いを集約するまでには至っていない。	本人の思いを聞き取り、全職員で情報共有することで、より本人の思いに沿った支援に繋がることが期待できる。そのためには全員が確認できる仕組みが必要と思われる。検討、取組みが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様や御家族へのアセスメント行いどのような支援のもと生活を送っていたのか確認を行っています。集めた情報については基本情報を作成し職員が確認しケアにあたっています。また自宅で使用していた椅子を持参して頂き食事の際に使用しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の個人記録や排泄チェック表で日頃の気づきや変化、過ごし方を把握し、対応方法についてはカンファを行い統一したケアを行えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行っている事業所内会議にて期間が来た利用者様とサービス内容の見直しが必要な方のカンファを実施している。その場にご家族が入る事はない為別の機会でご家族の意向を確認している。	家族の意見は、訪問時や電話で尋ね、本人の意向を反映した介護計画は長期1年短期6ヶ月で、ケアマネジャーが作成している。サービス内容は、個人記録に列記することで、全職員がケアの統一他、実践状況が解る介護記録になっている。定期的なモニタリングやカンファレンスにて課題抽出し、次の見直しに繋げ了承を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの内容に沿った記録となっている為、実際にできなくなった事や支援の内容が変わる事もある為、記録をもとに介護計画書を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日スーパーの広告でお寿司を見ている利用者様と一緒に昼ご飯にお寿司を買いにお出かけした。面会が完全にできない期間、駐車場と居室で面会して頂く事もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響で、地域へ出向く事も地域の方が会議以外で施設に入る事もなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される際、主治医を変更される方がほとんどだが、長年通っていた先生に看てほしいと要望がある場合は継続してかかりつけ医へ受診して頂いたり、訪問診療に来て頂く事もある。	現在は、ほとんどの利用者が、協力医の往診を受けている。かかりつけ医を継続の3名他、他科受診は、家族が受診支援している。看護師は、主治医との連携や家族が他県にいる利用者の受診支援を行っており、受診結果等を全家族へ伝えている。緊急時は、看護師を通じ、主治医の指示により、救急搬送等の対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師1名がメインで看護業務にあたり、異変が確認された場合は看護師へ報告し看護師の判断のもと受診対応している。また看護師不在時でもオンコール体制で24時間対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が発生した際は、入院時にある程度の入院期間の確認を行い状況確認の為に医療機関連携室へ連絡を入れている。転院してリハビリをするのか施設へ早く戻りたいのかご本人、ご家族の意向も確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明や事前指示書に記入をして頂いているが実感が沸いていない。入居後状態が変化した際やレベルが低下した際は事前指示書の内容を再度ご家族に確認し終末期の介護計画を作成している。	入居時、管理者は家族に看取りの説明を行い、重度化の際、本人がどのような治療を望むのかを問うた事前指示書と同意書を交わしている。状態変化時、事前指示書にて再確認し、同意を得て看取りを行っている。経年では複数の看取りの事例がある。家族は宿泊も可能であり、看取り後の振返りで、本人家族に寄り添う支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルや緊急時対応マニュアルをもとに定期的に研修を行っているが、実際に事故が起きるとマニュアルを確認する時間もなく慌ててしまう事がある。起きた事故に対してカンファを行い対応方法について検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月の消防訓練に合わせて、非常災害時の勉強会や半年に一度の避難訓練、更に11月には自然災害訓練を実施する予定。またBCPの作成も進めている。	毎月実施の非常災害訓練の中で、自然災害は、マニュアルや備品を確認している。火災訓練は、年2回消防設備会社に協力を得て、通報や消火器訓練を行っている。実際に利用者参加の避難誘導もある。消防団との連携はあるが、消防署立会は実現していない。夜間想定や夜勤専門職員の訓練、非常持出し整備はこれからである。	近年各地で発生する自然災害を、自分事として捉え、あらゆる自然災害を想定した訓練実施に期待する。夜間想定を増やし、夜勤専門職員の訓練参加と、避難時に有効な非常持出し整備が急がれる。更に、12月予定の消防署立会訓練の成果に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に気を付けている事は利用者様の排泄に関する職員間での確認時やご本人へ確認する際の声量について注意している。	職員は利用者を苗字にさん付けで呼んでいる。部署会議で自己チェックシートからFreedom委員会で利用者への不適切な対応を抽出し、話し合い改善に繋げている。管理者は「自分の親と思って支援してほしい」と伝えている。職員は入社時に守秘義務の誓約書を提出しており、毎年社内研修で法令遵守、プライバシー保護を学ぶ機会がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床の声掛けをした際、起きたくない場合は時間を置き声を掛ける。どうしても起きたくない場合は朝食と昼食を欠食する利用者様も居る。また、レクリエーションへの参加もご本人の意思や表情で判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、ご本人の意向に沿った支援を行っているが、業務のスケジュールなどはある程度決まっている為、時間通りに終わらず焦る職員も居る。レクや入浴等の声掛けは行いが気分がのらない時は不参加や入浴日を変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を着て頂く事と、汚れや破れがある場合は買い替えるようにしている。衣類やスリッパを購入する際一緒にお出かけできる方は一緒にお買い物へ行き好みの物を購入して頂いている。月に一度の訪問美容でカラーやパーマも好みでしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アクリルパネルを設置した事で1人で食事をしている感覚がある。利用者様の食事については摂取量を見ながら好き嫌いを総合的に判断している。食事の準備をして頂く事は少ないが、食後の片付けをして頂く事はある。食事の際は車いすから椅子へ移って頂いている。	法人の管理栄養士が献立を立て、1階の厨房で調理している。3ヶ月に一度嗜好調査を行い、苦手な食べ物は代替品を提供している。週1回はパン食の日があり、クロワッサンなど利用者に好評である。誕生会は職員と利用者がケーキにクリームを塗っている。また、正月はおせち料理と刺身盛りで、利用者、職員全員で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委員会やIN・Out委員会により食事摂取量や食事形態、食事姿勢等の見直しを行い、水分接種についても24時間水分量と排泄回数を確認している。水分摂取量が少ない方へは好みの飲み物や提供頻度、タイミングを見て提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ッスル委員会により歯科衛生士さんが行う口腔ケアの動画を撮影し、毎食後の口腔ケア時に同じようなケアが行えるようマニュアルを作成している。またご自身で行える方へも手順を掲示し実施して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	IN・Out委員会により利用者様の体に合った排泄物品の選出や昼と夜で使用物品を変えている。排泄チェック表で排泄パターンも把握できている為トイレへ誘導しトイレにて排泄される方も多い。	日中は極力おむつを使用せずトイレでの排泄を支援している。IN・Out委員会がパッドの種類を検討している。自らトイレに行く利用者もあり、職員は排泄チェックシートでパターンを把握し、声掛けし誘導している。布パンツからリハビリパンツに移行するのではなく、給水パンツを利用することなどアイデアを活かしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操やレクリエーションに加え、一日1ℓの水分補給を目安としている。しかし便秘の方は多く、排便の確認を毎日行い排便が3日ない場合は薬で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週間で入浴予定は決まっているが、入浴の声掛けをした際、気分が乗らない場合は時間帯や入浴日を変更している。入浴中は職員が見守り自身でできる部分は行って頂き出来ない部分の介助と会話を行っている。	事業所には一般浴と機械浴を備えており、水曜日、日曜日以外は入浴できるよう準備している。一人ずつ入浴する度に湯を入れ替えていることは特筆すべき点である。利用者は、夏も浴槽に浸かり職員と世間話を楽しんでいる。本人の好きなシャンプー等を使用する人もいる。入浴拒否の場合は、再度声掛けして促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や前日の状況次第で休息のタイミングや時間を決めている。夜間の睡眠確保の為排泄物品の見直しや、日中休まれる際は太陽の光が顔に当たらないようカーテンで適度に暗さを調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人服用方法が違う為、個々の支援内容についてはケアプランに落とし込み個々の対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ユニット対抗で行うレクについては競争心も見られる。仕事をしていた際に読んでいた本や、自宅で行っていた脳トレをご家族が持って来られされる利用者様も居る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は「外に行ってみましょうか」の声掛けで希望する利用者様は施設前や近隣商業施設までお出かけする事は以前より増えた。	新型コロナ禍の時も周辺を散歩している。職員は利用者に声掛けし、数人ずつ近隣のスーパーに自分が食すお昼ご飯を思い思いに購入し、セルフレジを体験している。近日中に長崎駅周辺の外出レクリエーションを予定しており、県庁舎など散策するよう職員が企画を練っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様のお金は全て事務所で預かりしているが、お買い物へ行った際は実際にお金を入れたり、セルフレジを体験する事もできた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より電話の希望がある場合は対応しています。またご家族から毎日電話してほしいとの要望があった際には寝る前に携帯で電話をする事もありました。お手紙についてはご家族から届く事はありますが、利用者様が書く事は年賀状以外ありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体が明るく景色もいい為天気の良い日はのんびりと特に過ごされているように思います。また空調についても設定温度や利用者様が座って居る場所により空調の調整を行っています。リビングソファがもう少し大きければよりいいと感じます。	リビング天窓からは自然光が差し込み、窓からは海が臨める。室内は華美な装飾もなく、落ち着いた空間である。新型コロナの関係上、空気清浄機や消毒液を配置し、換気や温度調節等、随所に感染症対策を施している。利用者同士、パーティション越しに歓談したり、テレビを視聴の他、新聞を読んだり自由に過ごす様子が確認できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人でリクライニングソファへ座る方も居り、リビングで本や新聞を読まれている方も居ます。何もせず1人で座って居る方については職員が近くへ行ったり、他利用者様が居る場所へ一緒に行く対応を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込まれたものに加え、身体状況の変化により新たに自宅から持って来て頂いた事もあります。ご本人が希望する配置に全てする事は難しいですが話し合いながら家具の配置を行っています。	持込みに制限はなく、テーブルや椅子、テレビ他、寂しくないようにと家族が持ち寄ったぬいぐるみがある。職員は、利用者が混乱しないよう、筆筒をハンガーラックに変えたり、動線に配慮した配置換えを家族と相談し行っている。また洗面台に歯磨き手順を掲示し、見守りながら利用者の自立支援に努めている。自室として設えがある居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器を持ってキッチンへ行く、取れかけた掲示物を貼る、はさみを使う、針を使う等、一見危ないと思う事で利用者様がしているのを職員が近くで見守る体制をかのような限り取っています。		